

インドの2017年4-6月期GDP成長率は+5.7% GST導入の影響で市場予想を下回る伸び

情報提供資料 2017年9月1日

インド政府が発表した2017年4-6月期の実質国内総生産(GDP)は対前年同期比で5.7%増となりました。2016年11月初旬の高額紙幣刷新や2017年7月の物品・サービス税(GST)導入の影響などから、景気減速懸念が高まっていました。

▶ 2017年4-6月のGDP成長率は+5.7%

- インド政府が8月31日に発表した2017年4-6月期の実質GDP成長率は、+5.7%（前年同期比、以下同じ）となりました。市場予想である+6.5%を下回り、前四半期の+6.1%からも減速しました。7月1日の物品・サービス税(GST)導入を前に、企業が在庫削減を進めたほか（GST導入前に仕入れた在庫については7月1日以降税控除が受けられなくなるため）、税率が下がることを想定した一部商品の買い控えや、販売店が仕入れを減らしたために生じた品不足などで、消費が低迷したことが主な背景です。

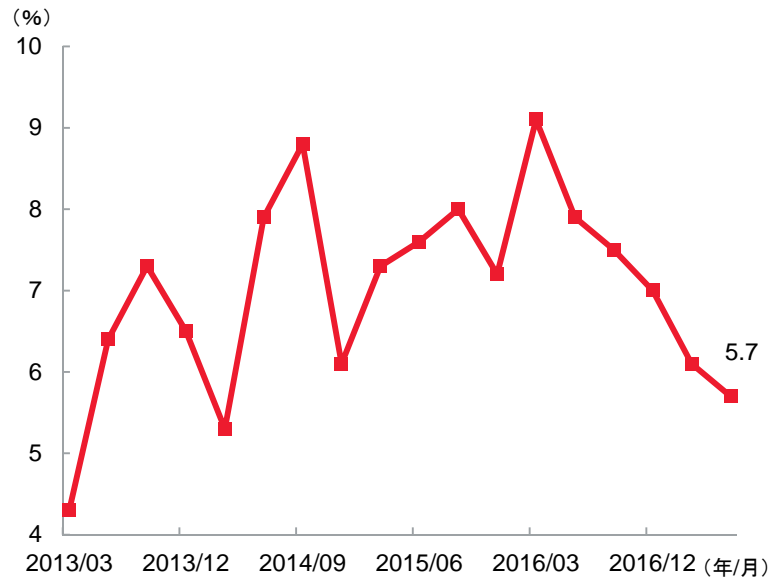
▶ 今後の見通し

- こうした在庫削減や買い控え、品不足による消費の低迷はGST導入に伴う一時的な要因によるものと考えられます。今後は圧縮した在庫を再び積み増す動きが出ると見られるほか、GST導入前に一時的に落ち込んだ自動車販売が7月以降再び増加するなど、すでに消費回復の傾向も見られることから、景気は自律回復に向かうことが予想されます。
- インド準備銀行(RBI、中央銀行)は8月2日に利下げを行いません。引き続き企業の設備投資が低迷していることや、インドルピーが対米ドルで上昇し輸出が伸び悩んでいることもあり、当社では、今年度(2018年3月末)中に更なる利下げの余地があると見ており、金融政策が景気を下支えするものと考えています。
- GST導入は短期的にはGDPの下押し要因となりましたが、中長期的にはプラスの効果が大きいと見られます。既に小売業向けの貨物運送料金の半減などが報じられており、今後は物流の効率化や税収の増加などのプラスの効果が顕在化し、景気を押し上げるものと期待されます。

▶ 金融市場の反応

- GDP発表を受けた翌9月1日の金融市場では、寄り付き直後(インド時間9:30)の時点で、代表的な株価指数であるSENSEX指数は前日比上昇、インド10年国債利回りも前日と比べて低下(価格は上昇)しており、市場予想を下回ったGDP成長率を嫌気した動きは見られていません。今回のGDP成長率減速はあくまで一時的であると受け止められたものと考えられます。

インドの実質GDP成長率(四半期、前年同期比)の推移
(2013年1-3月期~2017年4-6月期)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドの実質GDP成長率(前年同期比)

		2016年 4-6月期	2017年 4-6月期
実質GDP成長率 (%)		7.9	5.7
内訳* (%)	農林・水産業	2.5	2.3
	鉱業・採石業	-0.9	-0.7
	製造業	10.7	1.2
	公益	10.3	7.0
	建設業	3.1	2.0
	サービス業	9.0	8.7

*実質総付加価値(GVA)の内訳。GDP=GVA+間接税-補助金。

出所: インド中央統計局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。
※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。